

文芸特集

たくさんの力作の中から選ばれた秀作の一部を紹介し、ます。限られた字数の中に織り込まれた、さまざまな思いや季節の情緒を味わってみてください。

一席

ひらくとき音するだろうひな鳥が生まれるように木蓮の咲く

評 春たけなわ、ひな鳥が生まれるように咲く木蓮。開くとき小さな音がするかも知れない。にぎやかな季節の到来である。子ども頃の紫木蓮の花びらは「馬の舌べる」であった。

大戦を生き来し母はよく笑ふつられて我も笑ふ毎日

芝下3 小泉登代子
菩提寺の古池の上を銀やんまつき母のせて低く翔び来し
安行領根岸 菅野 孝仁

核残滓(ごんざん)プルトニウム(ウムの)寿命までヒト生きをやるや十万年も
川口1 川久保良治

町から市へ八十年の時をへて降りたつ駅にマンシヨンの数
幸町1 板橋 豊子

フキの日は高温多湿の工場内鉄を溶かせし湯入れなつかし
坂下町3 川名 佳子

やわらかき山椒の葉もぎ取りてたたけば春のおひが匂ふ
差間1 土田 富栄

手をつなく照れたら駄目よお父さん他人はうえ見る今日は夜ぎくら
榛 松 小山 鈴子

争いをどちらにも引かず持ち越せばなんてことなし今日は晴天
末広3 後藤 和子

返るかな気にかげながらする会釈返りて朝を薫る紅梅
安行原 高橋 清

我もまた目的のある顔をしてバス停に居り春を待ちつつ
芝新町 荒木 信子

芝川の岸辺の葦原音楽堂牛がえる吠え葦切の鳴く
上青木1 石塚 栄

晩春の平凡な日が暮れかかりこの平凡をおゆるしあれよ
西川口4 平田 らた

いちはやく開きはじめし桜の名を安行桜と知りてうれしき
上青木3 益岡 勇

桃(とうもろこし)辛夷(しんい)連翹(れんぎょう)桜花(おうげ)水木春(みづき)を継ぎつつ安行の里
峯 龜山 幸輝

短歌

金子富美子 選

俳句

山崎 十生 選

一席

難たちのおしやべり聞こゆ深夜かな 西青木4 青柳 裕美

評 五段とか七段で飾られた雛が、深夜に何かを語り合っている。雛にとっては、昼の間すまし顔で気取っていたから、疲れやストレスが溜まっているのかも知れない。恋の噂話とか苦勞話で楽しく盛り上がっている。

積まれたる瓦礫の何ぞ草崩ゆる

ポタガール見沼たんぼは花の道 飯塚4 伊藤 勝雄

かたくりやたひたすらに通す意地 源左衛門新田 小野 隆子

困憊(こんぱい)の水車宿むる春の水 上青木1 鈴木 千鶴

身の丈の暮らしてよけれ蜷汁 安行領根岸 田中 幸子

水面より生まれいでたる蓮若葉 幸町1 保坂 治代

匂ひ濃き臥竜の梅の下に佇つ 南鳩ヶ谷3 星野はるひ

ムスカリを束ねて挿せば童話めく 並木1 山本 昭子

白木蓮りリアパークの目印に 新堀 浜田 輝子

賑はひし御成りまつりや時雨来し 弥平4 木村恵美子

若竹の伸びゆく先や御成道 坂下町2 栗田 節子

荒川の白波春の唄聞こゆ 安行領根岸 小林 茂

密蔵院視界玲瓏(れいろう)さくら路 領家2 福島きよの

里 渡邊 左助

一席

キューポラの街で映画が売れている 川口1 松岡恵美子

評 早船(はやぶね)ちよ氏原作。「キューポラのある街」が日活上映を見たのは昭和37年4月。予後に市の名前は史実の識る所だが、折しも市制80年に鑑み往時を偲ぶ軽妙な一句の感懐がよい。

月一度キューポ・ラ市場に若さ舞う 朝日5 堀 晋

合併後御成祭り得た絆 栄町3 武富 弘行

漂流の悼みをしのぶ原発忌 栄町1 小館 綾子

復興へこころの庭に花は咲く 飯塚2 川瀬伊津子

ここだけの内緒が風に乗る尾鰭 鳩ヶ谷本町3 加藤 レイ

掛け捨ての御霊に済まぬ年金日 東川口2 星野 直康

予期をせぬ加齢が変えた設計図 川口4 富田千恵子

散策の距離足腰に聞いてみる 安行領家 原沢かね子

才女より気働(きこ)ききに惹かれゆく 元郷2 田口 公江

今日もまたピエロを演じ日が暮れる 安行領根岸 堀口 弘一

川柳

新井 愁思 選

今日もまたピエロを演じ日が暮れる 安行領根岸 堀口 弘一

※文芸特集は年1度の掲載を予定しています。次回の募集は広報かわぐちでお知らせします。

問い合わせ…広報課 ☎048-259-7628 FAX048-258-5661